

第 2 回御嶽山噴火に伴う木曾川上流域水質保全対策検討会の結果

1. 現状について

- ・御嶽山噴火後から実施している水質調査によれば、木曾川本川では水質上の大きな問題は発生していない。
- ・牧尾ダムにおいては、ダム貯水池内において水素イオン濃度（pH）の低下が確認されているが、魚類の斃死などの異常は見られない。また、平成 26 年 11 月 20 日に実施した貯水池内の鉛直調査によれば、ダム堤体付近においては標高 827.4m 以深に、濁度 800 以上の白濁物質が沈降している。

2. 課題について

- ・今後、牧尾ダム利水放流設備を利用した利水補給が必要となることが想定されるが、この際に湖底に沈降している白濁物質や水素イオン濃度（pH）の低下した貯留水がダム下流に流出する可能性がある。

3. 当面の対応方針について

- ・利水放流設備からの放流による下流河川への影響を緩和するため、牧尾ダム貯水池内の白濁物質の流出抑制対策として、牧尾ダム利水放流設備取水口前面（湖底）に汚濁防止膜を設置するとともに、利水放流設備放水口下流に大型土のうを設置する。
- ・白濁物質の流出抑制対策工事の完了後、利水放流設備放流水を洪水吐ゲート放流水により希釈させる試験放流を実施する。
- ・試験放流時に、下流河川において水質調査を実施することにより、下流河川の状況等を把握する。
- ・試験放流日は、平成 26 年 12 月 15 日から 18 日までの 4 日間とするが、気象条件等により変更する場合がある。
- ・試験放流時の調査は関係機関で協力し、パトロール・水質調査を実施する。
- ・試験放流の中断基準は、試験放流までに調整し、検討会メンバーへ確認して試験放流を実施する。
- ・試験放流結果を踏まえ、本格運用の方法を検討し、木曾川本川への水質的な影響が少ないと判断され、かつ、利水補給が必要な場合は、関係者への情報連絡等を行い、本格運用を進めていくことを参加機関で確認した。

以上